

## 医療機関の冷却塔に起因したレジオネラ症集団発生

宮城県 塩釜保健所 鈴木 陽

レジオネラ症とは、レジオネラ・ニューモフィラを代表とするレジオネラ属菌への感染症である。レジオネラ属菌は細胞内寄生性を示す好気性グラム陰性桿菌であり、土壌や環境水などに存在するアメーバ内で増殖するのが特徴である。粉塵などの吸入曝露の他、同菌が冷却塔や給湯システム内などに生息するアメーバ内で増幅した場合はそれらをエアロゾルとして曝露し、経気道的に感染する。40種類以上あるレジオネラ属菌のうちレジオネラ・ニューモフィラ血清型1の感染が最も多く、尿中抗原検査にて診断が可能である。

令和5年6月末、宮城県北部に位置する保健所管内の医療機関よりレジオネラ症の孤発例の届け出があった。直後1週間に2例のレジオネラ症の届け出があり、両症例ともに同医療機関に滞在歴があった。時間的・地理的な集束があったことより、同施設内におけるレジオネラ症の集団発生と判断し保健所の対応方針を切り替えた。

感染源検索として実施した初動調査において、二つの冷却塔から各々9,700万および6,800万CFU/100mLのレジオネラ属菌が検出されたことから、冷却塔が感染源であると判断した。医療機関が実施した2回の清掃後、同菌が検出限界以下になったことを確認した。

正確な感染拡大状況を把握するため、管内の感染症指定医療機関および医師会の協力のもとレジオネラ症を対象としたイベントベースドサーベイランスを実施するとともに、患者由来の検体確保に努めた。

同施設の冷却塔および複数の患者から同じ遺伝子型のレジオネラ属菌が検出されたことより、冷却塔に起因したレジオネラ症の集団発生であると判断した。